

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
TEL093-331-6395(交通部安全対策課)

第194号 令和5年5月号

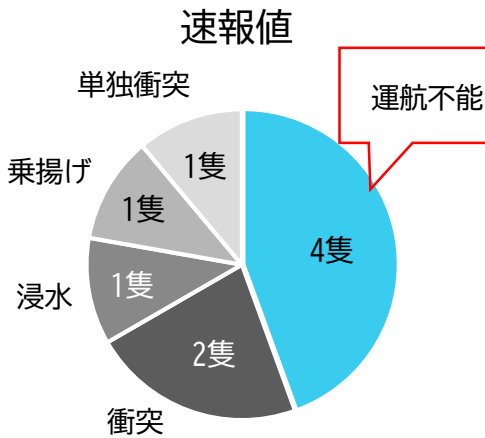


BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

【船舶事故編】

令和5年七管区ゴールデンウィーク船舶海難発生状況 (4/29~5/7)



約半数が**運航不能**！

運航不能とは

運航に必要な設備の故障、燃料欠乏により、船舶の航行に支障が生じること。

- 【例】
- ・プロペラにロープが絡まった
 - ・バッテリーの過放電
 - ・燃料コックを開けていなかった
 - ・係留の不備で船が漂流した



運航不能を防ぐためには…

発航前検査

が大事！

発航前検査のチェックポイント

◆ 事前に気象・海象を調べましょう

波は高くないですか？警報・注意報は出ていませんか？

◆ 救命胴衣を着用しましょう

船長には同乗者に救命胴衣を着用させる義務があり、令和4年2月1日から違反点数2点(他人を死傷させたら5点)の付与が始まりました。

◆ 航海計画に見合った燃料を入れましょう

行き・帰りの分だけでなく、余裕をもって入れましょう。

◆ 定期交換部品の劣化状態の確認をしましょう

目安として海水ポンプのインペラは1年毎、バッテリーは3年毎に交換が推奨されています。

◆ 船体の外観を確認しましょう

プロペラにロープや網が絡んでいませんか？
船底のビルジの量は普段より多くないですか？



自分で整備する場合は、**取扱説明書**をよく読みましょう！

また、自分で整備できない箇所もあるため、**整備事業者による定期的な点検**をお願いします



上記チェックポイント以外の検査項目は「発航前検査チェックリスト」をご確認ください →



【人身事故編】



梅雨こそ熱中症に気を付けて!!

【事件事例】

令和4年7月1日11時40分頃、釣り人が釣り場を移動中、岸壁上に釣り竿とクーラーボックス等が放置されているのを発見し、持ち主が見当たらないことから、周囲を確認したところ、事故者が海面にうつ伏せで浮いているのを発見し110番通報した。現場に駆け付けた消防により救助され、病院に搬送されたものの、死亡が確認された。
医師による診断の結果、動脈に石灰化が認められたため、**生前の脱水による意識障害**が原因で、岸壁から海中転落し溺死したものと判断された。
事故者は、**救命胴衣を着用していなかった**。

「熱中症は夏だけ気を付ければいい」と思っていないですか？
梅雨の時期は、湿度が高いため汗が蒸発しにくく、身体に熱がこもり、気付かぬうちに熱中症を発症する可能性があります。
もし釣り中に熱中症を発症したら、意識障害を引きおこし海に転落する危険があるため、熱中症予防にも十分注意しましょう！

熱中症の症状

軽症

めまい、失神、筋肉痛、手足のしびれ、気分の不快
→涼しい場所で休みましょう

中等症

頭痛、吐き気、倦怠感、虚脱感
→病院へ行きましょう！診察が必要です

重症

意識障害、痙攣、高体温、血液検査異常
→救急車を呼びましょう！入院が必要です



釣り中の熱中症対策

◆ こまめに水分補給をしましょう

喉が渴いていなくてもこまめに飲みましょう。
飲料として1日に1.2リットルの水分摂取が推奨されています。
アルコールは尿の量を増やし身体の水分が減少してしまうため控えましょう。

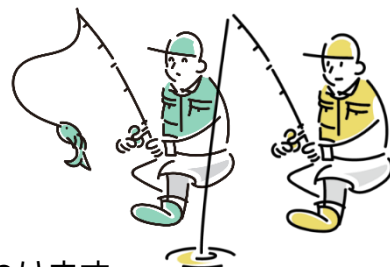


◆ 身体の蓄熱を避けましょう

保冷剤や水、冷たいタオルで体を冷やし、
熱がこもらないようにしましょう。

◆ できるだけ複数人で行動しましょう

複数人いることで、海に転落しても気が付いてもらえる
可能性が高くなります。
また、同行者が海に落ちたら118番通報をお願いします。



◆ 無理をせず、早めに切り上げましょう

一時の楽しさより命が大切！「あとちょっと」が生死に関わります。



万が一に備えて、**暑くても必ず救命胴衣を着用**しましょう！
チョッキ式が暑い方には、肩掛け式やベルト式の救命胴衣がおすすめです。